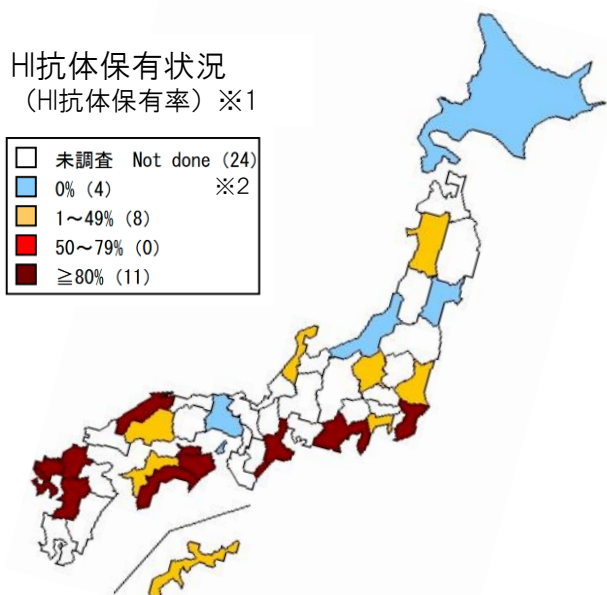


# 今年も豚異常産ワクチンの接種時期が近づいてきました！

蚊が媒介する日本脳炎ウイルスとゲタウイルスの感染は、東北以南の豚で確認されています。今年度の調査において、日本脳炎は各県で抗体保有率が高く、図1のとおり近隣の静岡県、三重県でも高い保有率が確認されました。管内養豚場における日脳の抗体検査では、ワクチン未接種の肉豚で、R4.4月～9月までで1%、9月～R5.1月で19%の抗体保有率でした。

ゲタウイルスについては、図2のとおり、抗体保有率1～49%の県が愛知県を含めて13県あり、特に愛知県は42%と高い保有率でした。

**図1 2022年度**  
ブタの日本脳炎ウイルス感染状況※3



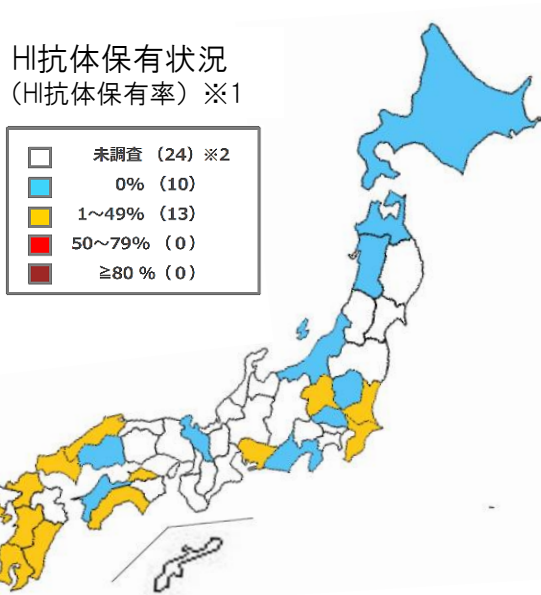
※1 2022年5月～9月における最高抗体保有率  
(抗体価≥1:10)

※2 ( )内は都道府県数

※3 2022年10月31日現在

(国立感染症研究所ホームページより引用)

**図2 2022年度**  
ブタのゲタウイルス感染状況



※1 2022年1月～12月の最高抗体価保有率

(抗体価≥1:320) 3種混合ワクチン接種豚群を含む

※2 ( )内は都道府県数

((株)微生物化学研究所試験データ引用)



- 日本脳炎やパルボウイルス、ゲタウイルスについては、管内の養豚農場でも抗体陽転(野外感染)が確認されています。
- ゲタウイルスについては、妊娠初期に感染すると胚が死滅するので、子数の減少や種外れ、不受胎となります。このような場合はゲタウイルス感染の可能性もあります。
- 上図のとおり本県ではゲタの感染リスクもあることから、2種混合よりも**3種混合**の使用をお勧めします。
- **ワクチンは毎年継続して接種することが重要です。**

**ワクチンプログラムについては次ページをご参照ください！**

愛知県東部家畜保健衛生所

TEL : 0532-45-1141

FAX : 0532-48-8943

新城設楽支所

TEL : 0536-22-0549

FAX : 0536-23-4952

# 日本脳炎



ウイルスを持った蚊が媒介

ワクチン未接種の妊娠豚の感染により、

- ・ 白子、黒子、ミイラ化胎子といった大小の死亡胎子が娩出
- ・ 生後間もない子豚が神経症状を呈して死亡

種雄豚が感染すると、

- ・ 精巣が腫大、交尾欲減退、精子数の減少、奇形率の増加など
- ・ 重症の場合、睪丸が萎縮して無精子症となり、回復不能になることも



写真：動衛研「家畜疾病図鑑Web」より引用

# ゲタウイルス



ウイルスを持った蚊が媒介

ワクチン未接種の妊娠豚の感染により、

- ・ 流産や死産、子数の減少などが発生（特に妊娠初期に感染すると発生率は高くなる）

新生子豚が感染すると、

- ・ 子豚の元気消失、哺乳力の減退などのほか、下痢、全身の震え、後躯麻痺による起立不能などの神経症状がみられ、1週齢以内に急死。



発病新生豚の犬座姿勢（家畜疾病総合情報システムHPより引用）

## 【共通すること】

- ✓ 流行は夏～秋 → その後に異常産などが発生
- ✓ 母豚には特に変化はみられない
- ✓ 生産成績に大きく影響する

**ワクチンにより被害は防げますので、適切に接種できているか以下のプログラム↓を確認しましょう！**

## 推奨ワクチンプログラム

### 【候補豚(自家育成、F1導入ともに)】

→ 初回種付け2週間前までに2回接種(1か月間隔でL→K(もしくはL→L))

### 【母豚】

- ① 春一斉接種の場合：全頭に1か月間隔でL→K
- ② 繁殖ごとの場合：次の種付けの2週間前までにL

### 【種雄豚】

→ 年1回、全頭に1か月間隔でL→K  
(育成雄がいる場合、3か月齢以上の豚に1か月間隔でL→KもしくはL→L)

※ L：生ワクチン  
(3種混合・2種混合など)

K：不活化ワクチン  
(日脳単味・パルボ単味など)

**★免疫を持って種付けに入れるように！ 種雄豚も忘れずに！**

**★冬季に黒子等の被害があれば秋に追加接種を！**